payment navi

「ペイメント取引セキュリティ対策セミナー2024」

クレジット決済等の不正被害を防止するためには？

2024年10月25日

国内の不正対策の注目ポイント

- 国内の不正対策の流れ - 海外の不正対策と比較した日本の動向
- 不正対策の注目点 - 具体的な不正対策の方策（FIDO、トークン、不正検知ソリューション等々）
- EMV 3-Dセキュア浸透のポイント - 2025年3月を目標とした義務化の動向、必要な対応
- 今後必要な不正対策のポイント - 不正対策全般で想定される具体的な指針、アクション

自己紹介 - 丸山秀幸

元Mastercard、元クレジット取引セキュリ ティ対策協議会委員、30年以上のカード決済業界での経験、カード発行（イシュア）、カード利用加盟店管理（アクワイアラ）、国際ブランドの全ての立場での職務経験があり、その経験を生かして、経済産業省、日本クレジット協会（JCA）等での関連会議への出席、ペイメントナビ等での講演実績があり、現在、株式会社YTGATE (https://ytgate.jp/) の顧問をはじめ決済のセキュリティ関係の専門家として活動中。

連絡先

E-mail : hideyuki.b.maruyama@gmail.com
携帯 : 090-1762-3910
https://www.linkedin.com/in/hideyukimaruyama/

国内の不正対策の流れ

- 海外の不正対策と比較した日本の動向

日本の独自事情

- 「クレジットカード」のシェア
  - 90%以上
  - オーソリ？与信枠の管理？
- 「オンアス」が起源のシステム
  - カード会社＝イシュア＆アクワイアラ
  - マルチアクワイアリング
  - ライアビリティは？
- 日本独自仕様
  - JIS2、Type F、コード決済
  - オフライン、国内電文仕様、洗い替え
- 縦割り行政

海外の不正対策

- チップ同等のライアビリティシフトを非対面でも実装
  - 3D-セキュア
  - ネットワーク トークン
- 3D-セキュアのパスワードはSMSによるワンタイムパスワード
- カード利用通知
- 不正対策は外部の知見を活用
  - AI等を活用した不正検知
  - チャージバックの管理

不正対策の注目点

- 具体的な不正対策の方策（FIDO、トークン、不正検知ソリューション等々）

Digital Identityの認証

- FIDO：First Identity Online
  - Multi Factor Authentication
  - What you know から What you have
- EMV Co
  - EMV Chip
  - EMV 3-D Secure
  - EMV Token

不正検知

- ブラックリスト
  - カード番号
  - IPアドレス
  - デバイス
  - 携帯電話
  - Eメールアドレス
  - 配送先情報
- 購買行動の分析
- AIを活用した「自動」検知

EMV 3-Dセキュア浸透のポイント

- 2025年3月を目標とした義務化の動向、必要な対応

クレジットカード セキュリティガイドライン

- 法律上の加盟店の義務は「不正対策」
  - 「認証」対策のEMV 3-Dセキュアだけでは不十分
  - ライアビリティがシフトしてもチャージバックが減るだけで不正が減るわけではない
- 「原則」全ての加盟店がEMV 3-Dセキュアを2025年3月までに導入
  - 全件に全社が導入するわけではない
- 「クレジットカード・セキュリティ官民対策会議」

必要な対応は「認証」と「不正検知」の準備と管理

今後必要な不正対策のポイント

- 不正対策全般で想定される具体的な指針、アクション

よくある質問

- EMV 3-Dセキュアは効果があるのか？
- 不正検知のベンダーはどこが良い？
- EMV 3D-セキュアと不正検知はどのように運用したらよいのか？

回答

業種、取扱商品、プロモーション等々
加盟店の状況により異なる

計数管理と適正なリソース配分

- オーソリ承認率の管理
- EMV 3-Dセキュアの認証率の管理
  - フリクションレス
  - チャレンジ
  - マーチャントオンリー
  - NG
- 不正検知、不正被害、チャージバックの管理、分析
- 適正なリソースの配分